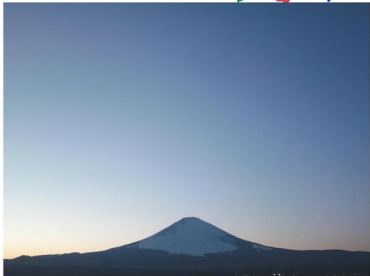


# 東山花だより

(贈字は元同僚委員長 故 北村徳太郎氏)

2012年



『夕陽暮れの際に佇む富士山/東山荘自然館より』

写真：白鳥 裕之

—さるのつゆやきへ—

## 夕陽の風

6

東山荘所長  
大和田 浩二

厳冬の東山荘は、あれほどにぎやかだった夏のシーズンからは打って変わった静けさと、張り詰めたような空気の冷たさが、広い荘内の自然全体を支配する時期です。雪もひと冬のうちに何回か積もり、駐車場や道はすぐに雪かきをして無くなりますが、木々の根元や日陰の芝生の上には白く固まった雪があららこちらに残っています。このような時期の東山荘は、また夏とは違った魅力を見出せるときでもあることをご存知でしょうか。まず第一に、富士山の美しい姿が他のどの季節よりも堪能できること。夏は雲にかくれて意外見えない富士山は、冬の時期は順に美しく雪をいただいた、まさしく絵のような姿をほとんどの毎日夕陽の丘や自然館から眺めることができます。早起きをすると、朝日を受けた赤富士を見ることが出来、これは夕暮れの富士と共に、本当に見事です。またこの時期は、色んな冬のキャンペーンを行なっているのですが、他のシーズンよりもお得にご利用が可能です。東山荘の誇るプログラムスタグフによる富士のふもとの雪遊びプログラムは、面白くてダイナミック、子どもたちに大人気です。学校やグループではおこし横断下さい。そして釣りの好きな方はすぐ目の前の東山湖で釣り三昧を、スキー場も40分圏内に2つあり、シヨップや温泉も御殿場アウトレット、自噴温泉が10分圏内、箱根まで20分です。研修所としての東山荘とはまた違った、ゆつくりくつろげる心の癒しの場としてのご利用の仕方にも、大歓迎です。もちろん、荘内はボカボカの暖かさ。三葉商事YMC Aフレンドシップキャンプによる福島からの方々をお迎えしてのキャンプも、年末年始家族パーティーには35名の家族をお招きすることが出来、2月にはスキー場イェティを利用してのスキー・雪遊びキャンプを、イェティ様の暖かいご支援の下に行ないます。様々な企業やボランティアの方々の関わりにより、これからもますます面白くなる東山荘の冬を、皆さんも一度味わってくださいませようにお勧めいたします。

# プログラム通信

第46回年末年始家族パーティー  
12月30日～1月4日

東山荘がひとつの大きな家族になる特別な6日間を、最大217名のみなさんと分かち合いました。今回は東山荘の庭をベースにしたプログラム満載で、老若男女が楽しく親しく交わりました。次回はあなとも加わりませんか？  
(写真撮影：小笠戸 恒志)



大人も子供も入り混じっての歡々の集い。朝焼けの富士山を仰ぎながらのウォーキングも。



方を合わせてお餅つき。エアロビクスアワーやキャンプファイヤーで楽しく体を動かしました。



2012年の初日の出を富士山麓で迎えました。穏やかで和やかな1年を願って。観作りやスプーン作りは高潮のものの。観揚げ写真はダンスのよう。



落ち葉の山に30分！初雪やどんと焼き、書初めで日本の伝統文化にも親しみます。「野外メダサごらく大会」はみんなが笑顔に。餅のトング作りは心算から。



「心と体の手入れ法」でリラクセス。初めての薪割りや洗剤したり、星空を眺めに出掛けたりも。大きい人も小さい人も大興奮のカルタ大会。



例らかなニューイヤーコンサートはみんなが楽しめました。東山荘の庭や富士山の森でたっぷり遊び、再会を願いながらキャンディを灯しました。



恒例のブネウマ祭ではマイ著作や餅つきを通して愉しい交わりの一時を持ちました。

今回は稲田助氏（京都精華大学教授、「使い捨て時代を考える会」代表を講師に迎え、物質的繁栄をもたらした経済主義の弊害、これから進むべき道筋についてお話を伺いました。また、東日本大震災被災地域で農業に携わる方からのレポートもあり、それぞれの思いを共有する機会となりました。



恒例のブネウマ祭ではマイ著作や餅つきを通して愉しい交わりの一時を持ちました。

## 第58回 Y M C A 農村青年塾 1月20日～22日

Dance, Sing&Fire! (10)  
心はでれる火の回り (7)



不思議な月の夜。(写真) 落ち葉の山に遊ぶ(写真)



皆既月食の翌朝は、東山荘から静かな山頂に登りました。この時をわが思い出に刻みつけておきます。

皆既月食だよ！全員集合！！ 12月10日～11日  
ナイチャーセンター前の芝生やデッキで火を囲み、プチ野宿しながら皆既月食の夜を心ゆくまで楽しみました。こどももおとなも入り混じり、焚き火で炙ったものを夜更けまで食べた飲みながら、時々望遠鏡を覗いては月の色や地球の影の変化を楽しみました。



## 里山に託すこと

— 木を育て、森を育て、生きものを育てる —

二〇〇七年春にドングリの森をめざして、コナラとクヌギの苗木五〇本(高さ50cm)を植えたのが、里山づくりの始まりです。最初の五年間の課題であった下草刈りが効果を表してきたようです。昨秋の生長測定で、順調に育っているコナラは、樹高3mに達していました。ここまですれば、下草刈りは一段落です。つぎの五年間は、森の活用方法を考えながら、育樹に力を注ぐ時です。木が十分な光を浴びてすくすく育つことを助けていきます。

里山は里人が生活のために活用していた森です。東山荘の活動に役立つ里山を作りましょう。子どもたちが走りまわったり、木に登ったりできる森、カブトムシやクワガタが棲める明るい森もいいナ、と思います。皆さんの力で、森の生きものの棲みやすい環境を整えられていくにつれて、皆さんに気持ちのよい森の生活を楽しんでいただけるでしょう。里山づくりには、東山荘を利用される皆さんが気持ちよく汗をかいて協力できる楽しいプログラムをスタッフで考えてください。私も里山づくりの一環り十五年間のお手伝いをしていきます。



植樹3年後のコナラ。ここまでくれば、周囲のササ、ススキ、セイタカアワダチソウなどとの競争に勝てそうです。植樹後先ずやらねばならない下草刈り!

### みや・やすひこ氏

神奈川出身。02年より長崎YMCA理事長、公益法人申請に向けて奮闘中。05年長崎大学定年退職。保全生物学専攻、長崎県民の森のインストラクターなどの活動をおとし、森林と河川の生態系を紹介している。長崎平和記念教会員。YMCAとの関わりは、1959年4月の学生YMCAへの入会に遡る。



14月桜の咲く頃の4号館裏山

東山荘の広葉樹林。数十年後— はこのように豊かな森に

### 三矢 泰彦氏 (長崎YMCA)



東山荘ネイチャープログラム 飯田 朝紀

私は文字通り幼少期を東山荘で過ごしました。その頃を剪髪しながら、この3年、本業の傍ら庭仕事に専任しました。

私は東山荘に自然と人の共存する理想の環境を重ね合わせます。荘内に一歩足を踏み入れると、別世界に迷い込んだような静けさに安らぎを覚えます。劇的な四季の移ろいは一年の時の流れを玉感で感じさせてくれます。野鳥やムササビなどの小動物、昆虫が棲家を作り、食物を得、人間と共に生を謳歌しています。

その環境を造る東山荘の庭園は東山荘そのものの象徴です。大きな木々は長い歴史を背負い、天に届くように梢一杯成長を続けます。自生種と園芸種は互いを尊重し、一方を排他することなく共存します。細やかに配慮され、整然と行む庭木は芸術的な心を刺激し、創造力を育みます。隙間なく繁茂する緑は空間を覆い、そこに集う人々を温かく力強く包み込みます。こうして大事に作り上げられた庭園、そして人と自然を共に大切に守り育てる東山荘の伝統はこれからも継承してゆかなくてはなりません。それは時代に関わらず、人間が自然を守る唯一の道だからです。

東山荘は、自然の豊かさ、芸術性、機能性をこの順序で保持することを理想とした極めて稀な宿泊施設です。人間にとって有益で便利だけの施設ではなく、自然と共に生きる施設、その実現には多くの手間がかかります。その手間を惜しまずこの豊かな自然を守ってきた先人たちには感謝の念が絶えません。そして、自然の豊かさこそ表裏一体であるこの手間を惜しまず、後世に残していくのが私たちの義務です。荘内に建物が点在するのは荘内の美しい自然を歩きながら楽しむため、テレビなど娯楽要素が少ないのは自然の中に身を置く時間を大切にするため、常に、東山荘に集う人々はその豊かな自然との触れ合いに真摯を見出すのです。

東山荘に来る子ども達は実に多くのことを感じています。子どもは自然の大切さや美しさを頭では理解しませんが、彼らを通して無意識に自然の中で得た経験を蓄積し、後にその経験を振り起し、杯の基準として使うでしょう。木漏れ日に入り涼しい風に吹かれたり、大きな蜘蛛の目を丸くしたり、落ち葉の匂いを嗅いだり、雨上りのきらめく森を歩いたり、星々の瞬く夜空を仰いだり、薄暗くなるまで外でいっぱい遊んだり、自然そのものが与える経験が豊かな心を育みます。

イギリスの詩人・William Wordsworthは“My Heart leaps up”という詩の最後をこう締め括ります。“子どもは大人の父だ。願わくばこれからの日々が自然への畏敬の念の中に貫かれんことを”この美しい詩と共に、あの美しかった東山荘を夢に描きます。(写真：1993年撮影)



主催プログラムのごあんない

●冬の子ども自然キャンプ●

日程 3月30日(土)～14日(日)  
対象 小学1～6年生の男女  
1泊2日

参加費 9,000円  
※送料は別途お申し込み下さい

内容 今頃は2日間共富士山の雪の森に出かけ、特製ソリ(さるボード)を初め思う存分遊びまわられ、そして夜は子どもキャンプ初めみなでわざわざ体育館に1つ屋根の下泊します。果たしてどんな一夜になるか?



●6年生とプリンス

日程 3月31日(土) 日帰り  
対象 どなたでもどうぞ  
おひとり2,000円

参加費 おひとり2,000円  
※小学生を募集しております

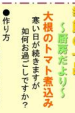
内容 小学校を巣立って6年生、東山荘を離れ欧州での学びに際立つプリンスリーダーと共に、春のひと時を楽しく語り遊び尽くそうではありませんか! 帰ってきたてね! つまでも2週間、3週間の仲間だよ!の気持ちを込めて!

●春の子ども自然キャンプ●

日程 5月12日(土)～13日(日)  
対象 小学1～6年生の男女  
1泊2日 ※予定変更  
※お申し込みは同時進行します

参加費 9,000円  
※お申し込みは同時進行します

内容 富士山に南へいづる春がやってきました。柔らかな新緑、ふつらとした土の匂い、盛んに鳴き交わす野鳥達。みんなの子になつて春の喜びを体いっぱいに取り込もう! 新しい仲間達を待っています♪



さるのつぶやき さるリーダーのつぶれ話

夕間暮れ一日が暮れて夜になるまでのわずかな間のことをいいます。冬によく晴れ寒さが厳しかった日の夕間暮れの空は、他の季節に比べて遙か通るように明るい薄明となり、またその状態が長く続きます。私はこのような透明感のある夕間暮れの空が特に好きです。一日見ただけで気持ちがつつきりしやつきりします。また、富士山の東の麓に暮らす私たちは、夕暮れ、夕焼け、夕明かり、夕闇と劇的に刻々と変化してゆく西の空にそびえる富士を一日の終わりに仰ぐ。幸せがあります。うれしかった、楽しかった、ただでなく、疲れた、悲しかった、つらかった、涙にきた、つまらなかつた、等々、どんな一日を過ごした後も、夕間暮れの空に佇み、次第に存在感と神秘性を増していく富士山を目にした瞬間、「あ、幸せ」と思ってしまうから不思議です。

表紙写真と「つぶやき」プログラムの主任 白鳥 裕之



●全園日食だよ!

日程 5月20日(日)～21日(月)  
対象 どなたでもどうぞ  
おとな10,000円

参加費 おとな10,000円  
子ども5,000円

内容 その特別な日は月曜日、学校のあることも遠く、ごめんね。君達には次がある! 静岡県で次に全園日食を見られるのは25年後という希少な機会を、特別な場所・富士山の合目から目の当たりにしよう!

季節の一品

大根のトマト煮込み

寒い日が続きますが、  
如何お過ごしですか?

●作り方

- ①大根は2cm幅に切り、面取りして格子に包み入れ、鍋に入れて水を加え15分位下茹でする。
- ②フライパンにオリーブ油を熱し大根を黄金色に焼く。
- ③鍋に移し、チキンブイヨン、トマトジュース、トマトピューレ、ベイクオンを入れて20分程煮込む。

●材料(4人分)

- 大根(2個) 4切
- トマトジュース 300cc
- トマトピューレ 500cc
- チキンブイヨン 100cc
- ベイクオン 2枚
- オリーブ油 適量
- オリーブ・パセリ 適量
- 塩・黒胡椒 適量
- コンスターチ 適量

お申し込み・お問い合わせ

資料のご請求は...

日本YMCA同盟 東山荘  
〒412-0024 静岡県御殿場市東山1052  
TEL 0550-83-1133  
FAX 0550-83-1138  
E-mail: tozanso@ymcajapan.org  
HP: http://www.ymcajapan.org/tozanso/



取り出しがれ  
チキンブイオンは  
乾燥の物、コン  
スターチは片栗粉  
でOKです。

編集後記

冬の寒さに耐えかねるような日々ですが、東山荘の庭ではヤマガラやシジウコカラがえすり、ハタモクレンの毛皮のコートを着た番もぐんと大きくなって、近づく春を知らせてくれています。東山荘の庭づくり、東山荘おきへのご意見ならびにご協力をお寄せ下さい。お待ちしております。